



<フィリピン・リサーチレポート>

情報提供用資料

2021年8月13日

フィリピン4-6月GDP、プラスに転じ前年同期比+11.8%

フィリピン統計庁(PSA)によると、同国の2021年第2四半期(4~6月期)の実質国内総生産(GDP、速報値)は、過去最悪の下落幅を記録した前年同期の反動もあり、前年同期比+11.8%で、12.0%の成長を記録した1988年の第4四半期以来の高い伸び率となった。新型コロナウイルスの影響で20年第1四半期(1~3月期)以降マイナス成長が続いてきたが、6四半期ぶりにプラス成長となった。

3月末から5月にかけて外出・移動制限が厳格化されたが、活動できる業種を増やしつつ公共交通機関の運行も続けるなど、経済活動に配慮したものであったこと、ワクチン接種が広がったことや、4月施行の企業復興税優遇法(CREATE)により、法人税率が下がったこと等が主な要因。GDPの約7割を占める個人消費は+7.2%、製造は+22.3%、建設は+25.7%、総資本形成は+75.5%。輸出も+27.0%。

政府は21年の通年GDP成長率が前年比+6.0~+7.0%になるとの見通しを示している。



出所:PSA

<http://www.capital-am.co.jp>

以上

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。